

佳作

あいさつは人を結ぶ

長野県 小諸市立美南ガ丘小学校四年 柏木 陽南

「おはようございます。」

と、高学年のお兄さんが、元氣よく大きな声で、あいさつをしてくれました。その時、私は、「私も、こんなあいさつをしたい、かっこいいな」と思いました。

なぜなら、私はあいさつが苦手だからです。自分からあいさつする事は、いい事だと思いますが、自分から進んでするというのは、少しはずかしい事だからです。また、あいさつをして、返してくれなかったらどうしようと、不安になるからです。

だから、私は自分の苦手を克服するべく、主にあいさつをする委員会である、代表委員会に入りました。代表委員会では、職員室や各クラスに朝の時間、あいさつ回りをし、しょうこう口で、通る人にもあいさつをします。

そして、代表委員会に入って、初めてあいさつ回
した。

私は、あいさつが苦手ですが、代表委員会に入っ
て、あいさつをおたがいに交わし合うと、目に見え
ない光でつながっているような気がしました。また、
あいさつは大切な言葉だという事を学びました。

これから、もっと色々な人達とあいさつを交わし、
目に見えない光をふやし、あいさつマスターになっ
て、あいさつを好きになりたいです。

りに行く時、「ちゃんとあいさつのできるかな」と、
とてもドキドキしました。その時、良いあいさつが
出来ず、委員会が終わって帰ってきた後、「なぜ、
良いあいさつが出来ないの」と、少し自分におこっ
てしまいました。でも、数を重ねていくうちに、だ
んだんと自分でも以前より大きな声が出せたな、と
思えるようになりました。また、今度は、もっと元
氣よくやろうと、やる気が出て来て、自分でもとて
もうれしくなりました。

ある時、職員室にあいさつをしに行く時、一、二
年生のころの担任の先生に、

「とてもよく、あいさつが出来るようになったね。」
と言われ、うれしくなりました。また、あいさつが
苦手だった自分が、ほめてもらった事に感動しまし
た。また、今の担任の先生からは、三年生の時、
「もっと元氣よく、相手が笑顔になるようなあいさ
つをがんばろう。」

と言われました。だから、私は変わろうと思いまし
た。相手が笑顔になるためには、自分が笑顔であ
いさつしないとダメだと思い、心はやさしく、顔や
表じようは笑顔でするようにしました。すると、友
達や先生が笑顔で、私がしてもらってうれしくなる
ようなあいさつを返してくれ、私もうれしくなりま